



連載

次代の農業を担う 22

栃木県農業大学校生のチャレンジ

三代目は甲子園ぎゅう児

私の家では祖父が酪農を始め、現在は祖父、父、従業員2名で酪農を経営しており、今の搾乳牛は約55頭ですが、子牛・育成牛約45頭は預託等をせず自家育成しています。この他に牧草やデントコーンなどの自給飼料を作り、日常の給与飼料としてはもちろん、経営にも活用しています。

私は小さい頃から野球に打ち込み、高校までは文字どおり「野球一筋」でやってきました。高校3年生の夏には念願の甲子園でのベンチ入りが決定：したところで大



会直前に怪我をしてしまい、甲子園の土を踏むことができませんでした。そこから家の仕事に興味を持ち、いつかこの酪農という仕事をしてみたい！と思い始めました。酪農は生まれたときから身近なところになりましたが、18歳までは野球一筋だったため知識も経験も全くなく、このままでは酪農に向き合うことはできないと思ったのが、農業大学校への進学を決断した理由です。

農大では、勉強だけでなく実習もできるし、農家出身ではない学

生も多く、とても良い経験になっています。実習では、私の家のやり方や他の農場のやり方とも比較し考えながらやるようにすることで、何が良いのか、何が悪いのかなどを、身をもって感じられるようになりました。この経験は、今後酪農経営者になるであろう立場の私にとって、とても価値のあることだと思います。

農大を卒業した後は、更に色々な経験を積み視野を広げ、地域に根ざした畜産経営を担うために必要なものをさらに多く得るつもりです。そして、野球で培った忍耐力と根性を生かし、代々積上げてきた酪農をさらに発展させるための努力を続けていきたいと思えます。



(農業生産学部 畜産経営学科 菊池 圭太)